慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 『日本政治外交研究』第六号刊行にあたって |
| Sub Title | |
| Author | 清水, 唯一朗(Shimizu, Yuichiro) |
| Publisher | 慶應義塾大学湘南藤沢学会 |
| Publication year | 2012 |
| Jtitle | 日本政治外交研究 No.6 (2012. ) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 慶應義塾大学日本政治外交研究会 |
| Genre | Technical Report |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001005-00000006--002 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 『日本政治外交研究』第六号刊行にあたって

慶應義塾大学総合政策学部　清水 唯一朗

今年も『日本政治外交研究』を刊行できる運びとなった。本研究会の活動を理解し、支援してくださるみなさまにあらためて感謝を申しあげたい。

日本政治外交研究会は六年目を迎えた。春は一八名が参加した。河さん（延世大）、三谷君、大西君と三名の院生、秋からは卒業した山内君が研究員として後進の指導に当たってくれた。ドイツ・ボーフム大学から留学してきたダニエル君もわれわれに新しい視座を提供してくれた。国会参観、社会人セッション、特別講義、浜岡原発見学、合同研究会、選挙報道への参加とアウトリーチも充実した一年となった。

今年も卒業論文だけで九本を数える。伊藤論文は育児と仕事を三年にわたる文献調査とインタビューで精緻に描き出し、木村論文は近代日本における西洋知識の吸収から、ことによると本質を見落としがちな人間の性を鋭く指摘した。ヨルダンをテーマにした品川論文は現地アンケートを政情と合わせて読み解き、ジャパンブランドを扱った白井論文は『外交青書』を丹念に分析して、いずれも明確な提言につなげた。長岡論文は明治維新の中心理念である公議輿論の変位を解き明かし、美谷島論文は日中日韓関係の転機となった宮沢談話の形成を情報公開と文部次官へのインタビューから捉えなおした。藤平論文は東京オリンピック招致という進行中の政策課題にマスコミュニケーション理論を用いて肉薄し、山内論文は政策転換という大きな問題を防衛費問題を事例にクリアカットして見せた。

いずれもＪＰＤ（Japanese Political Development）を掲げる本研究会の論文にふさわしく、政策の経緯と淵源を踏まえながら現状を理解し、明確な提言に結実させた好論となった。私の体調問題から朱入れをした原稿の返却が遅れたことを詫びると同時に、うまずたゆまず積み重ねられた筆者たちの知的営為に賛辞を送りたい。共に学べたことを誇りに思う。

「学ぶということは、覚えこむこととは全くちがうことだ。学ぶとは、いつでも、何かがはじまることで、終ることのない過程に一歩ふみこむことである。一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことではないか。学んだことの証しは、ただ一つで、何かがかわることである」（林竹二『学ぶということ』）。

二〇一三年二月一三日